

[ピラミッドだより]

「豚コレラ発生後の防疫見直し」について

下 山 安 (株)サンエスブリーディング)

All about SWINE 55, 28

昨年9月、岐阜県で国内では1992年以来26年ぶりとなる豚コレラが発生しました。その感染域は拡大しており、養豚密度の高い地域まで迫ってきており脅威となっています。

豚コレラの感染経路については中国やアジアで検出されている型（アフリカ豚コレラではない）であり、海外から侵入したとみられる可能性が高いとのこと。何らかのかたちで野生イノシシに感染し、拡大させていると考えられています。

野生イノシシが中心となって感染を拡大させている中、はたして効果的な防衛策はあるのであろうか。県の農業試験場のように防疫設備、防疫管理体制がしっかりした施設でさえ、豚コレラが侵入した例もあり、今後の防疫体制の在り方をどのように考えればよいのか、考えさせられてしまいます。

また、アジア地域で拡大し続けている殺傷力が高く、感染したイノシシや豚の排泄物の中で長期間感染力を持ち続けるアフリカ豚コレラにおいても、同様のルートで持ち込まれる可能性が高く、国内への侵入防止の重要性を畜産関係者以外にも呼びかけて、水際の防疫体制を徹底することが重要です。

今後の防疫対策についてですが、県の行政機関によっては豚コレラに対する意識度には温度差があるようなので、生産者への防疫対策の指導、意

識付けをもっと早い段階で進めていただければと思います。

生産者としては経営者がやれることを自ら率先して防疫設備・管理を進めていくしかなく、まずは農林水産省が対策として示していることを徹底していくことが重要と考えます。

- ・ 毎日の健康観察と早期通報・相談
- ・ 野生動物の侵入防止対策の徹底
- ・ 適切な洗浄・消毒
- ・ と畜場等の畜産関係施設での交差汚染防止対策の徹底
- ・ 畜産資材を導入する場合の対策の徹底

今後、イノシシによる豚コレラ拡大は種豚供給会社にとっても脅威です。10km圏内で豚コレラ陽性イノシシが見つかった場合には監視対象農場となり出荷制限がかかり、種豚・精液の流通もストップしてしまうことになり、このことは国内の養豚システムに大きな影響を与えることとなります。

現在の対応策で、豚コレラの拡大を防止できていない現状を考えると、ワクチンの使用・野生イノシシのコントロールなど、明確な対応策を国が早急に打ち出し、豚コレラ・アフリカ豚コレラ等疾病対策の見直しを図っていただきたいと切に願います。